

バルク乳由来の乳房炎原因菌調査成績を活用した搾乳衛生指導

三八地域県民局地域農林水産部八戸家畜保健衛生所

○谷地村結未 方波見将人

生乳の安全・安心の確保や乳質改善を目的とし、主要乳業メーカー、JA 全農あおもり（以下全農）、八戸農協、県民局及び家保で毎年実施している乳質改善共励会において、搾乳作業中の手袋の不使用など、衛生管理について改善を要する農場が多く見受けられた。このため当所では経済損失が大きいといわれている潜在性乳房炎原因菌の存在を把握し、生産者の衛生意識の向上を図るため、管内の全農場 26 戸を対象に、全農の協力のもと平成 29 年 8 月から 10 月にかけて 3 回、バルク乳を用いた細菌検査を実施し、原因菌の分布を調査。また、毎年継続して行っている農場ごとの衛生管理状況、搾乳手順等の実態調査の成績を比較検討。大腸菌群は全 26 農場、黄色ブドウ球菌（以下 SA）は 22 農場、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌は 16 農場において検出。農場の衛生状況と生菌数には相関がみられ、衛生対策の必要性を確認。これらの調査成績を生産者へ還元し、さらに乳房炎に関する勉強会の開催や乳房炎対策、原因菌に関する情報誌を発行することで、生産者の意識改善に取り組んだ。その結果、本年度の巡回指導時には、搾乳手順や衛生管理の改善を確認。今後も、各関係機関と連携し、調査の継続および改善状況の確認を行っていくとともに、今回の調査で SA が高率に検出されたことから、農場ごとのきめ細かい対応により衛生対策の強化に取り組んでいく所存。